



SDGs世代間学習プログラム in 綾BR

ユネスコ登録地などを対象に、生物文化の多様性や自然保護、地域の持続的発展を多角的に探究する「SDGs世代間学習プログラム」が2月26日～3月1日にかけて、綾町で開催されました。

参加者に奥山・里山での自然や文化を体感してもらい、世代間交流を通して地域の知恵と未来をつなぐ視点を育むことにより、世界規模の課題を地域の視点から捉え、若者が主体的に地域課題などに取り組むきっかけをつくることを目指す取り組みで、ユネスコエコパーク（BR）推進を担う地域おこし協力隊員の門田朔さんが企画したものです。

綾BRでの学習プログラムには、京都大学、金沢大学、立命館アジア太平洋大学など全国各地の大学から、留学生を含む14人の学生が参加。綾ユネスコエコパークセンターを拠点に、町の取り組みについての講義をはじめ交流セッション、照葉樹林や照葉大吊橋周辺の散策、猟友会による狩猟見学やジビエ料理体験、自然生態系農業と郷土料理の体験、地域文化を継承する若者との交流、雛山まつりへの参加など盛りだくさんの内容を満喫しました。



綾町イオンの森を視察した参加者



町の皆さんと食事をしながら交流

参加した学生からは、「シカやイノシシの肉、山野草の料理は初めての味だった」「まちの皆さんとの触れ合いを通じて、綾が大好きになった」などの感想が寄せられました。

今回のプログラムが、参加者にも町内の関係者にとってもよい刺激となり、BRを通じた交流が今後も続いていくことを期待しています。

